

Eric S. Rosenberg, M.D., Editor  
Jo-Anne O. Shepard, M.D., Associate Editor  
Sally H. Ebeling, Assistant Editor

Founded by Richard C. Cabot

Nancy Lee Harris, M.D., Editor  
Alice M. Cort, M.D., Associate Editor  
Emily K. McDonald, Assistant Editor



## Case 40-2014: A 57-Year-Old Man with Inguinal Pain, Lymphadenopathy, and HIV Infection

Rajesh T. Gandhi, M.D., Tarik K. Alkasab, M.D., Valentina Nardi, M.D.,  
and John A. Branda, M.D.

### Case 40 57歳男性、HIV感染者の単径部痛とリンパ節腫脹（担当：田中憲一郎）

#### 【症例】

HIV感染、鼠径ヘルニアの既往のある57歳男性、左単径部の痛みで救急受診。

10年間鼠径ヘルニアを患っている(右側より左側が大きい)が、間欠的に膨隆するものの困難なく整復できた。3か月前から膨隆部の痛みが増強。3週間前からは左側のヘルニアが大きくなってきて、間欠的な発熱と寝汗に気付いた。1週間前になって、ヘルニアの近位に触れると圧痛を伴う腫瘤に触れることに気付いた。受診前日の夜に口腔温にて38.1°Cの発熱を認めたため、翌朝病院を受診した。

痛みは3/10程度であり、悪心や嘔吐、腹痛を伴わないものであった。HIV感染は8年前に診断されており、その際CD4リンパ球数が66/mm<sup>3</sup>であった。間もなくしてART療法を開始された。最近の検査は2か月前に行われており、HIVのRNAウイルスは検出されなかった。CD4リンパ球数は250/mm<sup>3</sup>(正常範囲348-1456)であった。

8年前に左ふくらはぎと口唇にカポジ肉腫ができ、ブレオマイシンによる治療によって治癒している。加えて伝染性軟属腫、肛門部の異形成、肺マイコバクテリウム(9年前に診断、18か月の治療を受けている)、ニューモシスチス肺炎、口腔カンジダ、蜂窩織炎、クリプトスポリジウムに伴う下痢の既往がある。また、3年前に脂肪肝もしくはアルコール性肝障害と思われる一過性の肝機能障害を認めたことがある。HIVの診断を受けて間もなくして検査したトキソプラズマに対するIgG抗体は陰性。その他の性感染症の既往については本人は知らないとのこと。

処方は、エムトリシタビン、テノホビル(ヌクレオシド系逆転写酵素阻害剤)、リルピビリン(非ヌクレオシド系逆転写酵素阻害剤)であった。トリメトプリム(葉酸拮抗薬)とスルファメトキサゾール(サルファ剤)に対してアレルギーがあり、溶血性貧血を起こした。

#### 【生活歴】

異性愛者、離婚していて現在は女性のパートナーあり

パートナーの女性もHIVキャリアでありART療法を受けている。パートナーとの最後の性交渉は2年前でコンドームを使用。以後、性交渉はなし。

喫煙歴：現在も喫煙あり(30年間) 違法薬物の使用なし

施行歴：1日あたり1、2本のアルコール飲料を摂取

職業：建設工場に勤務

22歳の猫を飼っていて、藁くずの交換をしてあげている。噛まれたりひっかかれた記憶はなし

6か月前にオクラホマに旅行。白人ヨーロッパ系の祖先

父は冠動脈疾患あり、母親は線維筋痛症あり 同胞や子供は健康

【来院時所見】

体温 36.8°C 血圧 155/79mmHg 心拍数 82/min 呼吸数 18/min SpO2 100%(room air)

腹部：平坦、軟

両側鼠径ヘルニア(左 > 右) があるが整復は容易で整復時の圧痛はごく軽度

左鼠径部にかさばった3つのリンパ節腫脹(最大径 3cm)あり、わずかに圧痛あり

その他検査は正常。血小板、赤血球、腎機能、凝固は正常。

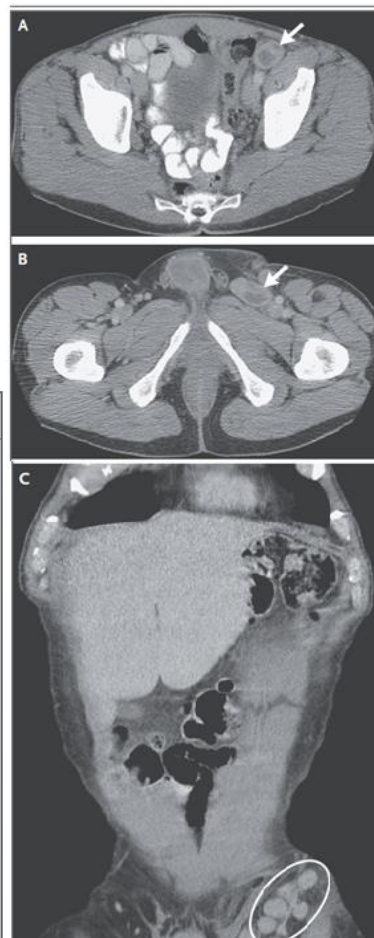
電解質、カルシウム、脂質その他については Table1

(腹部+骨盤部造影 CT)

左総腸骨、左外腸骨、左鼠径部のリンパ節が腫大、前骨盤壁の軟部組織内につながっている(Fig.1 参照) ネクローシスに一致した低信号域が左外腸骨リンパ節にみられ、短軸径が 2.4cm。また、左鼠径リンパ節(短軸径 2.2cm)が部分的にみられ、傍大動脈リンパ節と右鼠径リンパ節もみられた(径は 1cm 未満)。両側の鼠径ヘルニアは、脂肪を含んでおり左側が右側より大きいサイズ(最大径は右 3.8cm, 左 1.8cm)。肝臓の拡張あり、全長 22cm で下部先端は腸骨上縁に達していた。脾臓サイズは正常上限で幅 12.8cm。左の腎結石は明らかには見えず、腸閉塞の証拠はなし

# 本症例におけるリンパ節腫脹の鑑別は？

# 疾患を絞るために必要な検査はありますか？



**Table 1. Laboratory Data.\***

Variable	Reference Range, Adults†	On Presentation	Hospital Day 2
Hematocrit (%)	41.0–53.0 (in men)	37.6	38.0
Hemoglobin (g/dl)	13.5–17.5 (in men)	12.6	12.8
White-cell count (per mm <sup>3</sup> )	4500–11,000	12,100	9600
Differential count (%)			
Neutrophils	40–70	83.9	78.7
Lymphocytes	22–44	8.3	11.5
Monocytes	4–11	6.8	8.0
Eosinophils	0–8	0.6	1.3
Basophils	0–3	0.2	0.2
Glucose (mg/dl)	70–110	144	